

「ファミリーふれあいクリスマス会」事業報告書

事業推進係員 古賀久恵

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 野外での調理体験や身近にある素材を使ったクラフト体験を通じて、手作りのおもしろさを味わうとともに、家族や家族間の交流を深める。また、クリスマスや正月といった世界や日本の行事の意味を理解することで、文化に対する興味関心を高める機会とする。
- (2) 期 日 平成 29 年 12 月 9 日（土）～ 10 日（日） 1泊2日
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家
- (4) 参加者 95名（30家族）
- (5) 担当職員 古賀久恵（事業推進係員） 小宮広明（事業推進室長）
野尻明美（専門職員） 寺島しほ（事務補佐員）
- (6) 講師 藤原美里（研修指導員）
- (7) ボランティア 早田佳織（熊本大学3年） 廣重 舞（熊本大学3年） 米山咲（熊本大学3年）
石田悠太（社会人） 土持 亮（社会人）
- (8) 内 容 【1日目】アイスブレイキング・クリスマスディナーづくり・クリスマスパーティ
【2日目】門松づくり

2 成果と課題

(1) 成 果

- 「チームでつくることにより、ちがう家族の方々と交流できてよかったです。」「鶏をまるまる一羽みる体験などなかなかできないし、ダッチオーブンも初めて使い、大人も子どももワクワクドキドキで楽しかったです。」等の参加者の感想があった。野外調理の班でアイスブレイキングを行ったことで、参加者同士の交流が深まり、調理の際にほかの家族と協力してスムーズに活動ができた。また、家庭でできないクリスマスならではの野外調理を取り入れたことで、参加者の高い満足度を得ることができた。（満足 82.8%、やや満足 17.2%）
- 「アコーディオンの演奏ははじめてききましたが、とてもきれいな音でびっくりしました。」との子どもの感想があった。クリスマスパーティでアコーディオンの演奏を依頼したことで、参加者にとって貴重な機会にすることができた。
- 「初めて作った門松。難しかったけれど、家族みんなで力を合わせてできたことが、とてもよかったです。いいお正月が来そうです。」等の参加者の感想があった。家庭でなかなか作らない門松を製作することで、貴重な体験の機会になったとともに、家族で協力して一つのものを作ることで、家族の絆を深めることができた。また、「松や万両の意味を考えながら作りました」等の感想があり、行事の意味を考えながら参加者が活動した様子がみられた。
- 野外調理の事前研修や門松の材料採集を計画的に行い、準備を徹底するように心がけたことで、当日の活動が予定より早めに進み、時間に余裕をもったプログラムにすることができた。

(2) 課 題

- ローストチキンや蒸しケーキのうち、3分の1程度が十分に焼けていなかったことから、クリスマスパーティの開始が遅くなり、「料理が冷めてしまって残念だった」との参加者の感想があった。焼けていなかった場合の対策を事前に用意するとともに、今後ダッチオーブン料理の研修を重ねる必要がある。
- 参加者数が多く、プログラムの難易度も高いのに対して、スタッフの数が少なかつたため、スタッフへの負担が大きくなってしまった。企画段階でプログラムの難易度と募集人数、職員やボランティアの配置を考えて事業をつくる必要があった。

3 事業の様子



アイスブレイキング



クリスマスディナーづくり



クリスマスパーティ準備 (ツリーづくり)



クリスマスパーティの様子



アコーディオン演奏会



サンタさんからプレゼント



門松づくりの様子



門松完成